

| | | | |
|----------------------|----|--|--|
| 5 「話せない」理由を考える。 | 10 | <p>「話せない」理由は、失敗を恐れる場合と本当に何を話したらよいか分からない場合があることを確認する。</p> <p>本当に何を話したらよいか分からない場合には、質問を聞いていないときと、聞いていても思いつかないときなどがあることを思い出す。</p> | <p>を客観的に評価させる。</p> <p>自分のこれまでの経験を振り返らせたり、今、発表をためらっている自分の心の中を説明させたりする。</p> <p>場面を分けて考えることで、「話せない」理由にも様々な場合があることに気付かせる。</p> |
| 6 どうすれば話せるようになるか考える。 | 10 | <p>「間違えているかも」と思うときにどうすればよいか考える。</p> <p>質問を聞いていなかったときにどうすればよいか考える。</p> <p>発想が思いつかないときに大事なことを知る。</p> | <p>学級の合い言葉「失敗は成功の元」を利用し、子どもが間違えることは当たり前であること、話すことで考える力が伸びることを伝える。</p> <p>聞き逃すことは、だれでもあるので、素直に質問を尋ねるとよいことを話す。</p> <p>友達の意見が参考になるので、よく聞くように話す。</p> <p>「分からない」と思って焦ると、それ以上考えることができなくなるので、分かっていることと分からないことを落ち着いて考えるとよいことを話す。</p> |
| 7 これからの自分を考える。 | 5 | 話そうとする意欲を確かめる。 | <p>ネーム磁石を動かすことで話そうとする意識をもたせ、今の自分の気持ちを話させる。</p> <p>話そうという気持ちが高まったか。</p> |

3 成果と課題

自信がなくて話せない場合にどうすればよいか考えたとき、2年生が、「私も、1年生のときは、全校の前で何も話せませんでした。でもね、2年生になって勇気を出して言ってみたら、すっとしました。『聞いている人をかぼちゃと思えばいいんだよ。』とお母さんに教えてもらったんです。」と、自分の体験を話してくれた。これも、複式学級のよさであると感じた。その後、言いたいことがあるのに言えなかった児童も、少しずつ慣れない場での発表ができるようになってきた。学級全体に「話すことは、考えることにつながる大切な学習である。」という意識が浸透したように思う。

この授業をした後も継続して言葉掛けを行い、大人数での意見交換の機会には事前・事後指導として、励ましたり頑張って発表できたことを称賛したりするよう心掛けたい。